

報道関係者各位

ご案内

日本初！ 不妊ピア・カウンセラーによる「不妊を経たママさん」のサポート

## 「カンガルー・プロジェクト」始動！

NPO 法人 Fine (Fertility Information Network = ファイン)

<http://j-fine.jp/>

不妊症患者をはじめ不妊で悩む人をサポートする、体験者によるセルフサポートグループ「NPO 法人 Fine (ファイン)」は、このたび日本で初めて、不妊ピア・カウンセラーによる「不妊を経たママさんの心のケア」を行なう「カンガルー・プロジェクト」を開始しました。

### 不妊をとりまく背景・・・55人に1人は体外受精児(2005年出生時調査より)

日本人カップルの**10組に1組は不妊**であり、なんらかの**不妊治療を受けている人は47万人**に近いと推測されています。日本産科婦人科学会の2005年の出生数調査によると、体外受精によって国内で生まれた子どもは2005年までの累積で15万4,869人となりました。2005年単独では体外受精によって生まれた子どもの数は1万9,112人で、これは年間出生数106万2,530人の1.8%を占め、実に**55人に1人以上が体外受精で誕生した**こととなります。

ここに現れていない数字として、人工授精やそれ以前のタイミング法といわれる不妊治療で妊娠・出産する人も少なくありません。それらの出生数をあわせると、日本全体の年間出生数のうち不妊治療によって生まれた子どもの割合はもっと高くなると推測されます。

このように、不妊治療を受ける人は年々増加傾向にあり、体外受精でさえも特別な治療ではなくなっています。にも関わらず、「不妊」や「不妊治療」は世間一般の理解を得られているとは言い難く、不妊や不妊治療に対する偏見は、未だ払拭されていないのが現状です。

### 「治療している」とは言えたのに、「治療で授かった子どもです」とは言えない・・・

その偏見に起因する最も顕著な、それでいて**知られざる当事者の悩み**のひとつとして、「不妊を経ての妊娠・出産・育児に関わる悩み」が挙げられます。

「55人に1人は体外受精で誕生している」。その事実があるにもかかわらず、実際に「**うちの子は体外受精で生まれました**」と公言する人が、私たちの身近に、どれだけいるでしょうか。

当事者は、自分が治療をしている時にはそのことを周囲に話せても、その治療によって子どもを授かった場合、周囲に言えなくなります。「自分は何を言われてもかまわない。けれど、大切なわが子が偏見や好奇の目にさらされるのはしのびない」「特別視されたくない」「体外受精で授かった子どもだから、変わった子だと言われてしまうのではないか」という心配があるからです。事実、マタニティ教室やママ同士の会話で、**未だに「試験管ベビー**」などという言葉が聞かれるようです。当事者が、不妊治療によって子どもを授かったことを隠さずにはいられないのも当然のことと言えるでしょう。

## 「子どもをもったら、不妊の悩みから解放される」・・・とは限らない

不妊や不妊治療という言葉は、近年ずいぶん聞かれるようになり、それにまつわる当事者の悩みや心のケア・サポートなどもようやく注目されつつあります。

しかしながら、これまで見落とされがちだった悩みがあります。それが、不妊を経てママになった人たちの心のケアです。「**ママになったら不妊は終わる**」「子育ては楽しいことばかりだ」。多くの人はそう考え、また当事者自身も不妊治療をしている時にはそう考える人が多いようです。しかし、**実際にはそうではない**ことが、多くの当事者の生の声として上がってきており、その悩みは深いのです。

NPO 法人 Fine では、設立当初からこのテーマを非常に重要なことと考えてきました。そしてこのたび満を持してスタートさせたのが、この「カンガルー・プロジェクト」です。

## カンガルー・プロジェクトとは

カンガルー・プロジェクトとは、不妊治療を経て母となった人たちの、妊娠・出産・育児にまつわる不安や悩みを軽減し、自身の環境の中で、より良いライフスタイルを目指し実施するプロジェクトです。不妊治療によって妊娠した場合、またその後も、当事者は特有の悩みを抱えます。それまでともに治療を頑張り、悩みをわかち合ってきた仲間からはもう「卒業」とされるため、悩みを話す相手や場所を失ってしまいがちです。Fine のカンガルー・プロジェクトは、Fine認定ピア・カウンセラーたちが、**自らの体験に基づいて企画・運営**を行ないます。治療の体験に基づく妊娠・出産・子育ての悩みを安心して話せる場所を提供し、当事者同士のわかち合いの機会を持つことで、悩みの軽減を図ります。

形式は、心理の専門家をファシリテーター(\*)とした、「グループシェアリング形式」。そのため、子どもの心理的発達に関する悩みなどにも幅広く対応します。安全な場所でゆっくりと、心の悩みを語り合うことができます。

(\*)ファシリテーター:司会役

## カンガルー・プロジェクトの特徴・概要

1年間の養成講座を受け、認定試験に合格した Fine 認定ピア・カウンセラーが運営。心理を熟知し、自己体験に基づいているからこそ、多種多様な悩みに対応できます。

プロカウンセラーも参加して実施するため、子どもの心理的発達に関する具体的な相談にも対応可能です。

10人未満のグループ・シェアリング形式。子どもと一緒に参加できる会(乳幼児～3歳未満の子どもを同伴可能)と、体験者個人参加する会(子どもを同伴せず母親のみ)の2種に分けて開催。

都内を中心に、1カ月に1回程度の開催予定

参加費用:Fine 正会員 ¥1,000 非会員 ¥1,500

申込方法:Fine ウェブサイトのトップページ「不妊体験を持つ子育て仲間募集!」より

参考ウェブサイト

Fine ピア・カウンセラー養成講座

<http://j-fine.jp/counseling/2008/piacouns.html>

カンガルー・プロジェクト

<http://j-fine.jp/counseling/co-kangaroo.html>

## NPO 法人 Fine 活動実績(抜粋)

### 日本初！ 不妊ピア・カウンセラー養成講座の運営

日本で初めて、不妊に特化したピア・カウンセラーを養成、1年間の厳しいカリキュラムを経て認定試験に合格した認定ピア・カウンセラーたちは、全国で活躍中です。

第四期ピア・カウンセラー養成講座を、2008年4月より開講予定(受講期間1年)。

### 日本初！ 不妊当事者団体として、不妊治療の保険適用を求めて国会請願を実施！

不妊当事者団体として初めて、2007年10～11月に、不妊治療に関する薬と検査の保険適用を求めて国会請願を実施しました！ 集まった署名は約15000名分。衆・参合わせて34名の国会議員に協力いただきました。

参考ウェブサイト <http://j-fine.jp/shomei/shomei.html>

### 不妊に関する様々な調査を実施

詳細はFineのウェブサイト「活動」「アンケート」をご覧ください。

### 各種要望書の提出

これまでに、厚生労働省に新薬認可の要望書、保険適用の効能追加の要望書、自己注射の要望書などを提出。二つの要望書は要望が実現しています！

参考ウェブサイト <http://j-fine.jp/top/ziko/yobo-ziko.html>

### カウンセリング事業

専門家によるカウンセリングの実施、ピア・カウンセラーによる電話相談、面接カウンセリング

### 会報誌「えでいっと」・メールマガジン「Are you Fine?」の発行

### 学会・研究会への参加・発表

iCSI(国際不妊患者団体連合)に参加(2004年6月ベルリン、2005年コペンハーゲン)

看護協会研修センターにて講演(2004年9月、2005年9月、2006年8月・10月)

不妊カウンセラー・体外受精コーディネーター養成講座にて講演(2004年10月、2005年10月)

iCSI2008(2008年2月ブタペスト)では日本代表として発表(予定)ほか

### 媒体関係(取材や協力)

朝日新聞・東京新聞・日本経済新聞・北海道新聞・毎日新聞・読売新聞 他

NHK「クローズアップ現代」・日本テレビ系ニュース番組「今日の出来事」・日本テレビG+「医療ルネッサンス」・NHK「@ヒューマン」 他

週刊朝日・赤ちゃんが欲しい・AERA 他

### その他

講演会の開催(2004年10月、2006年11月)

JISART施設の認定審査に患者代表審査委員として参加(2005年、2006年、2007年(予定))

Fine会員は約700名(2008年2月現在。さらにSNSも開設!(登録者約550名))

NPO 法人 Fine (ファイン) URL <http://j-fine.jp/> 担当/松本、高柳

〒135-0016 東京都江東区東陽1-32-4 TEL 03-5665-1605 FAX 03-5665-1606

\* 常駐ではありませんので、できるだけメールにてお問い合わせいただければ幸いです。

E-mail カンガルー・プロジェクト問い合わせ: [fine-kp55@j-fine.jp](mailto:fine-kp55@j-fine.jp)

NPO 法人 Fine 広報窓口: [finekouhou@j-fine.jp](mailto:finekouhou@j-fine.jp)